



進路調査の結果から

先日の進路調査の結果から、15Rの数字を引用してみよう。

<第一志望> 15R 学年

- 国立文系
- 国立理系
- 私立文系・理系
- その他

<国立第一志望>

- 東大文
- 東大理
- 一橋
- 東工大

<私立第一志望>

- 早稲田
- 慶応
- 上智

<平日勉強時間>

●～30分	3	20
30分～	13	45
1時間～	7	66
1時間半～	12	91
2時間半～	4	70
3時間半～	0	18
4時間半～	0	4

<休日勉強時間>

●～30分	3	8
30分～	5	19
1時間～	2	23
1時間半～	10	50
2時間半～	11	45
3時間半～	6	66
4時間半～	2	44

5時間半～ 0 24

6時間半～ 0 30

<塾・予備校>

- 塾・予備校
- 通信添削
- 学校のみ

*

学年の数字は8クラスを合計したものだから、8で割れば平均値ということになる。それで見ると、「平日の勉強時間の0分～1時間の割合が多い」、また、「休日の勉強時間の0分～2時間半の割合が多い」ということが分かる。つまり、簡単に言えば、勉強時間が少ないということである。特に、休日の3時間半以上の部分は惨敗（笑）である。もちろん、時間だけかければイイというものではないが、時間をかけずにそれだけ効果的な学習が、つまり質の高い学習ができているのかは反省すべきだし、量をこなすことの大切も強調しておきたい。

「①塾・予備校」「②通信添削」については、2011年が学年全体で①●名、②●名、2010年では①●名、②●名である。つまり、今年は例年と比較して数が多い。これが有効な学習に結びついているのならよいのだが、7月の外部模試や10月の実力テストの結果を見てみると、必ずしもそうとはいえない。間に合わない添削が机の上に山積みになっていないか、塾や予備校で居眠りしているだけでないか、さらに、学校の授業が確実に理解できているのか、素直に振り返ってみよう。まずは授業をキチンとこなすべきである。